株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	公告方法	電子公告 当社ホームページに掲載いたします。ただし事故その他やむを得ない事由によって、電子公告により行うことができないときは、日本経済新聞に掲載して行います。
定時株主総会	毎年6月開催		
基準日	定時株主総会　3月31日 剰余金の配当　3月31日、9月30日		
単元株式数	100株		
上場証券取引所	東京証券取引所　市場第一部		
証券コード	4283		

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主さまは、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主さまは、以下の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社	（郵便物送付先）	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社　証券代行部
株主名簿管理人事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部	（電話照会先） （インターネットホームページ）	0120-176-417 http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」（株式会社証券保管振替機構）を利用されていなかった株主さまには、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座（特別口座といいます。）を開設いたしました。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先にお願いいたします。

ホームページのご案内

当社の企業活動、商品などに関する情報は、ホームページでご覧いただけます。

http://panasonic-denkois.co.jp/

パナソニック電工インフォメーションシステムズ株式会社
この冊子に関するお問い合わせ先
電話 06-6906-2801（代表）

※本誌に記載された社名および製品名などは、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Panasonic
ideas for life

第12期　第3四半期

株主通信

平成21年4月1日～平成21年12月31日

証券コード:4283

パナソニック電工インフォメーションシステムズ株式会社

ユーザー経験を活かした提案に高い評価。

自ら体験することで生まれた
当社独自の視点とノウハウが注目されています。

取締役社長 河村 雄良
Takeyoshi Kawamura

当第3四半期まで(4月～12月)を振り返って

当第3四半期連結累計期間(平成21年4月～12月)におけるわが国経済は、設備の過剰感、急速に進む円高やデフレの懸念などから、持続的な回復には引き続き不安を残したまま推移しました。

当社グループは、パナソニック電工グループ以外のお客さまに提案した運用統合・サーバ統合案件やワークフローパッケージが期を通じて好調に推移したものの、これまで継続して取り組んできたパナソニック電工向け基盤システム再構築案件がほぼ終結したことや、パナソニック電工グループ各社への売上が低調であったことなどから、前年同期と比べわずかに減収となりました。利益につきましては、原価の見える化による外注コストの削減など、徹底した合理化による経営体質の改善に努めました。しかしながら、厳しい経済環境下における競争の激化とサービス提供価格の下落、データセンター開設やサーバ導入等、将来を見据えて行った設備増強による費用の増加などを補う売上の確保に至らず、減益となりました。

2010年も企業の設備投資は抑制傾向と見られており、IT投資にも厳しい視線が注がれることになりそうですが、当社は、お客さまの「役立ち」につながる商品・サービス・ソリューションのご提案や経営体質の改善に全力で取り組んでまいります。

「ICT構造改革」のキーワードは「5S」

景気の不透明感が続くなか、企業が今年着目するのはシステム運用費用の抑制、「ICT構造改革」と見ています。なぜなら、従来「IT投資抑制」という言葉が指していたシステム開発は企業のIT投資の3割ほどで、実のところ、残りの7～8割はシステム運用にかかっているからです。

ICT構造改革はこれまで必要と信じ増強を続けるうち、知らず知らずにメタボ化したシステムを筋肉質にする試みです。ムダをそぎ落とせば、運動能力もアップします。この考えは、かつて当社自らが課題に直面した際の教訓と解決までの過程で得たノウハウに基づいており、最近ではIT先進企業として名高いお客さまからも高い評価を得ています。そのキーワードは「5S」(整理、整頓、清掃、清潔、しつけ)です。みなさまもご承知のとおり、5Sは製造業・サービス業の知見を活かした職場環境改善活動ですが、ICTの構造改革にも不可欠な視点です。パナソニック電工出身である当社もそのノウハウを活かし、お客さまと同じ視点で、同じ経験を持つ当社にしかできないご提案を行ってまいります。

今年も引き続き、役員・社員一同、一丸となって業務に邁進してまいります。

株主のみなさまにおかれましては、なお一層のご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

当第3四半期連結累計期間 業績ハイライト

売上高 ↘	266億69百万円(前年同期比 0.1%減)
営業利益 ↘	31億75百万円(前年同期比 4.9%減)
経常利益 ↘	32億09百万円(前年同期比 6.4%減)
四半期純利益 ↘	18億85百万円(前年同期比 6.7%減)
1株当たり四半期純利益 ↘	176円94銭(前年同期比 12円74銭減)

ポイント

- パナソニック電工グループ外への売上は引き続き好調に推移するも、厳しい経済環境下における競争激化やサービス価格低下などから減収減益に。
- 企業が合理化・効率化を推し進めるなか、自らの経験を活かした質の高い提案が高い評価を獲得。
- 2010年もユーザー経験を持つ当社ならではの商品・サービス・ソリューションの提案に全力で取り組む。

「5S」でICTの課題を解決する。

～ジャングルを切り拓け!～

一見、整備されているように見えるデータセンターだが…

企業を悩ませる「ケーブル配線のジャングル化」

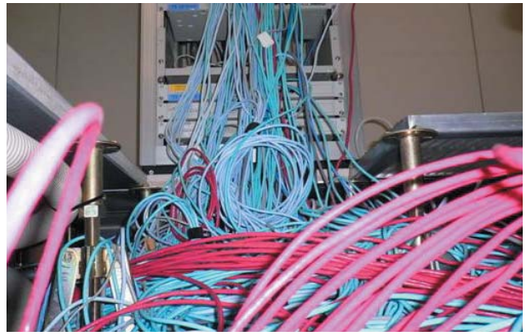
日常のオフィスワークにコンピュータがすっかり浸透した今、データセンターを抱える企業だけでなく多くの企業にとって頭の痛い問題、それはシステムや機器をつなぎ、稼動させるためになくてはならない「ネットワークケーブル」の配線です。サーバ・ストレージの何倍もの勢いで増加するネットワークケーブルは、無造作に配線することによって、自らの重みによる断線など、事業継続に影響する深刻な事態を引き起こしかねないのです。

今回は、当社がかつて直面した配線のジャングル化の危機と、「5S」※でネットワークケーブルの整備・管理を実現するまでの取り組みを紹介します。

かつての危機

オープン化&IT化で配線が爆発!

これまで、企業のコンピュータシステムといえば、1台であらゆる業務アプリケーションをこなすメインフレームでした。ところがこの10年ほどで、複数のコンピュータを連携させるオープン系システムが急速に台頭（オープン化）。オフィスでも、パソコンの1人1台利用やグループウェアの全社展開などIT化が進展。しかし、こうしてネットワークを介したシステムが増えていくにも関わらず、ネットワークケーブルの配線計画はIT業界ですら見落とされがちだったのです。いつしか当社でも、ネットワーク配線がうっそうと生い茂るジャングルと化し、何がどこにつながっているのかを調べるのも一苦労の状態に。



ジャングル時代の配線の様子

整理・整頓・清掃の“S”

数万本の配線の整備・管理に着手 「やめる」「とめる」ことからスタート

ジャングル時代の配線

現在のきれいになった配線

平成18年、根元も先も見えない配線の混沌を打開すべく配線管理に着手。管理対象としたのはサーバ1500台、独立システム50台。その配線数は実に数万本、ケーブル全体の重さは数十トンもありました。他社では100台の配線管理に1年以上を費やしており、当社の規模だと10年以上かかる計算に。実際、現状把握調査に要した時間は1年。しかも、この調査で「すでに使っていないのに、まだつながっている」配線やサーバが大量に出てきたのです。ITの成長と拡大の現場に同居していたのは、短い使命を終えたネットワークとシステムの残骸。「整理・整頓・掃除」を進めるためには「やめる」「とめる」決断も必要でした。

清潔・しつけの“S”

配線管理システムと配線ルールで ジャングル化を徹底的に阻止!

この過程での新たな発見、それは「清潔」を保つ、つまり整備されたネットワーク配線の構築・維持には、システム構築の時点からネットワーク配線を意識することが大切ということでした。そこで「しつけ」としてシステム構築・運用担当者と共同でルールを作り、平成21年9月には効率的な維持管理をサポートする配線管理システムを導入。

配線管理システム

現在、既存のネットワーク配線の一部と新規システムのすべてが配線管理システムの管理下にあり、全体の約40%まで進捗しています。今後も粘り強く切り替えを進めながら、いつかお客さまの「役立ち」につながるようノウハウの蓄積にも取り組んでいきます。

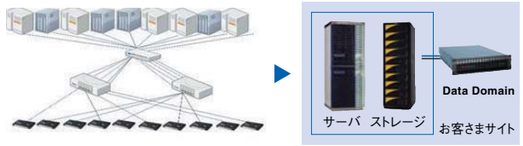
※5S（ごえす）とは・・・職場環境の維持と改善のために徹底すべき5つの取り組み。
- 整理（Seiri）：いらないものを捨てること
- 整頓（Seiton）：置き場所を決め、決めたとおりに置くこと
- 清掃（Seisou）：常に掃除を行い、きれいにしておくこと
- 清潔（Seiketsu）：整理・整頓・清掃された状態を維持すること
- しつけ（Shitsuke）：ルール・手順を正しく守ること

01 コールセンターパッケージをバージョンアップ「eSmileCall ver.2」を発売

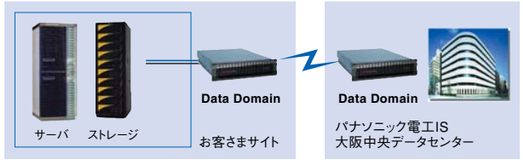
当社は11月11日、コールセンターパッケージの新バージョン「eSmileCall（イースマイルコール）ver.2」を発売しました。「eSmileCall」は平成19年10月に発売以来、高い利便性と導入しやすい価格が評価されています。今回のバージョンアップでは全画面を再設計するとともに、お客さまご自身がご利用方法にあわせてカスタマイズできる「セルフカスタマイズ機能」を加えました。当社は「eSmileCall ver.2」を特に、コスト削減に取り組む企業向けに訴求するほか、ERPパッケージとの統合提案を推進し、中小規模から大規模ユーザーまでを対象に拡販を図ります。

02 データドメイン株式会社のバックアップストレージ製品の取り扱いを開始

当社は12月1日、データドメイン株式会社のバックアップストレージ製品「EMC® Data Domain®」の取り扱いを開始しました。当社は同社製品を活用し、コスト削減と効率化に成功した経験があり、このノウハウをバックアップ統合や遠隔バックアップ統合を図る企業へ展開していきます。



データドメインによる効率化のイメージ



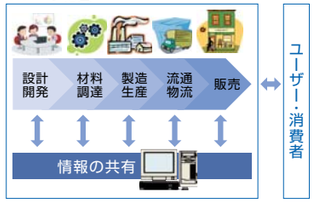
データドメインによる遠隔バックアップのイメージ

03 パナソニック電工ロケーションシステムズ株式会社を吸収合併

当社は3月1日、当社連結子会社で位置情報サービスの提供などを行っておりましたパナソニック電工ロケーションシステムズ株式会社を吸収合併しました。これは、当社グループのさらなる成長をめざすうえで、選択と集中を図るべく実施したものです。この吸収合併により当社グループは、当社ならびに連結子会社2社の3社体制となります。

ディザスタリカバリ	災害などによって障害が生じたシステムを復旧すること。または、障害が発生した際に、効率よく迅速に復旧するための予防的措置や機能、運用体制。
プラットフォーム	コンピュータにおいて、プログラムを動作させる際の基盤となるもの。例えば、WindowsやMac OSといったOS（オペレーティングシステム）や、システムを稼動させる環境が相当します。
CRM（Customer Relationship Management）	企業が顧客と長期的な信頼関係を築くことによって、顧客の満足度を高め、それと同時に企業の収益率向上にもつなげようとする方法。CRMの代表的なものにコールセンターがあります。
オフショア開発	システム開発などのIT関連業務を海外の企業や子会社へ委託すること。安価な労働力によるコスト削減というメリットがあるので、日本からの委託も年々増加しています。

ERP（Enterprise Resource Planning）	企業の資源（物的資産・人事・資産など）を有効活用するため総合的に管理し、経営効率化を図るための方法。ERPシステム導入によって、より効率的な業務の合理化・コスト削減が可能になるとされ、多くの企業がERPシステムを採用しています。

SCM（Supply Chain Management）	製品の開発から原材料の調達、生産、流通、販売、消費にいたる商品供給の一連の流れを、コンピュータで総合的に管理し、コスト削減による経営効率化を目指す仕組み。

SCMの範囲